

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第14号 ☆ ☆

マイ スカイ

1996年 7月16日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行 者

板野中学校

学 習 会

編集・文責：吉成正士

暑い毎日が続きますね。バテバテになってたりしてませんか？バテないためには、とにかくしっかりと食事をし、しっかりと睡眠をとることです。あとは、暑さに慣れることですね。体が弱ると、0-157にやられるかもしれません。気をつけてください！

さて、この14号は、本当は終業式前にみなさんの元へ届くはずだったのですが、私の親戚のお葬式やら、出張やら、台風やらでバタバタしてしまい、こんなに遅くなってしまいました。ごめんなさい！ちょっと頭の回転を戻して、読んでみてください！



◎県中 (徳島県部落解放学習会中学生集会) 要項決定!!

以前から紹介、報告してきた県中ですが、第3回実行委員会を不動中学校で行い、詳しい要項が決定しました。次の通りです。

《メインスローガン》 「信じ合える仲間と共に」

- 目 的 (1) 部落差別の解消に向け、自らの地域や学校での実践・活動を交流し合うことにより、部落解放運動の担い手としての自覚を高めよう。
- (2) 学習会の仲間の連帯を強化し、主体的に部落解放に取り組もう。

主 催 部落解放学習会中学生集会実行委員会

日 時 8月7日(水)9:30～

場 所 板野町ふれあいプラザ

参加者 学習会生徒、学習会関係者、同和教育関係者

日 程

10:00	10:20	12:00	13:00	14:30	14:50	15:30	16:00
受付	開会行事	全 体 会	昼食・移動	分 散 会	休憩	総 括	閉会行事

全体会のテーマ

- (1) 私自身の社会的立場を自覚しよう！
- (2) 学校における同和教育の現^{げんじょう}状を明らかにし、部落問題学習を積極^{せっきよくてき}的に推進^{すいしん}しよう！
- (3) 学習会の現状について話し合い、学習会の意義・目的を達成^{たっせい}しよう！
- (4) 親の生きざまや自分の生^おい^た立ちの中にある部落差別について話し合おう！
- (5) 解放運動^にの担^{にな}い手としてどう生きるかを話し合おう！

分散会のテーマ

- (1) 自分自身の社会的立場を理解しよう！
 - ・ 部落に生まれたことを「いつ」「どこで」「だれから」知らされたか
 - ・ そのときどのように感じたか
 - ・ その後の生活がどう変わったか
- (2) 小・中学校における部落問題学習を振り返ってみよう！
 - ・ 学校における部落問題学習について
 - ・ 学習会について
- (3) 私と親のくらしや被差別^{ひきべつ}体験を出し合おう！
 - ・ 私と親のくらしを語ろう
 - ・ くらしの中にある差別を語ろう
- (4) 中学生生活^{じゅうせい}を充^{じゅうじつ}実させよう！
 - ・ 今の中学生生活に満足^{まんぞく}しているか
 - ・ 今、心配^{しんぱい}なことや悩み^{なや}はないか
- (5) 解放運動の担^{にな}い手としてどう生きるかを話し合おう！
 - ・ 解放運動をどのように理解しているか
 - ・ 私たちの運動^{かだい}の課題や私たちの運動とは何か

今のところ、20校近い中学校の参加が見込まれ、当日集まる人数は200名を越えることになりそうです。板野町で行われる、一大イベントって感じですね。この機会^{きかい}に、板中^{ふく}を含めたいろんな学校の同じ世代^{せだい}の仲間が集まり、今の自分の思いや、学級・学校・学習会^{げんじょう}の現^{げんじょう}状を語り合うことで、互^{たが}いを知り合えればと思います。

また、板中の先生方や保護者の方々も、積極的に参加していただければと思います。そうすることで、今の板中の学習会生徒^{なや}の悩みや、他校の学習会生徒^{なや}の悩みに触れることができると思います。それがスタートとなり、「だから今、自分はどうしなければいけないのか？」ということが見つけられれば、サイコーですね。

昨年、実はそんなことがありました。そのことを昨年の『MY SKY第12号』にまとめていたので、振り返ってみたいと思います。

.....

そんな生徒のみなさんの感想文を交えながら、以下に記していきたいと思います。

1年生分散会^{ぶんさんかい}で、ある中学校の女の子が「実は私は、一昨日^{おとつひ}になって初めて、自分が部落出身^{しんかん}だということを知らされた……」と告げてくれました。その瞬間^{しゅんかん}どよめきが起こりました。そしてそのことは、分散会にいた人々の心を動揺^{どうよう}させました。その発言^{はつげん}に板中生が続いていきます。まるで「これが現実だ！」とハンマーで殴^{なぐ}られたような話し合いでした……。

けど、それも「多くの仲間がいる！」ということを感じることができたから言えたのだと思うんです。仲間の存在^{そんざい}は、一人ひとりの大きな力になっているんですね。

……分散会で他の学校の子の意見を聞いていると、「一昨日自分が部落だということを知った」ということを言っていた子がいて、私は自分が部落と知ったときのことを思い出しました。

私が知ったときは、はっきり言ってあんまり辛^{つら}くなかったです。多分^{たぶん}、部落という形で差別を受けたことがなかったからだと思います。でも自分の先祖^{せんぞ}が、作られた差別で差別されていたなんて思うと、腹が立ちます。

けど、私は部落だからといって弱気^{よわき}になりたくありません。弱気になっていた^{だれ}ら、誰に負けるのでもなく、部落に負けるのです。

私は交流会に行^いって、たくさんの仲間がいることをあらためて実感^{じっかん}できました。そしていろんな人の意見を聞いていると、自分にあてはまっていたり、そうじゃなかったり。でも、真剣^{しんけん}に言っている人の目を見て「私も頑張^{がんば}らなくちゃ」と心から思いました。

交流会はあまり楽^{たの}しくはなかったです。だけど、何か部落^{かん}に関しての自分が前より強くなった気がします。そして、仲間がいるということもうれしいことと思いました。そして、部落という仕組^{しく}まれた壁^{かべ}にまるめこまれないように、自分から壊^{こわ}していけるようになりたいと思いました。

板野中1年女子

.....

《1995年度学習会(子ども会)だより MY SKY : 第12号より》

この女の子も、今年は2年生です。おそらくまた参加してくれることでしょう。そして、

このときつながろうとした板中生のみなさんも、たくさん参加してくれることと思います。
さらに深いつながりを求めて、また新たなつながりを求めて、一生に二度とないこの8
月7日を、大事な大事な一日にしましょう!!!



◇ これからの日程 ◇ ◇ ◇

夏休み、たくさんの学校行事、部活動行事、そして学習会行事がありますが、暑いから
といってボケツとしてるのじゃなく、自分を奮^{ふる}い立たせて、いろんなことにチャレンジ
してみましょう!そして『今年の夏休みの自分は、いつもと違うぞ!』という感想をもて
れば、それでOKだと思います。そんな夏休みをおくってください!『変わらなきゃも、
変わらなきゃ!』ですよ。思い悩んで何もしないよりも、かえって何も考えずにやってみ
ることも大切ですよ。

この夏休みにいろんなことに参加し、いろんな経験を積み重ねてください!!



- 7月29日(月)・30日(火) 解放子ども会作品づくり・南校区(1:30～:南公会堂)
- 31日(水) 学習会3年生補充学習(10:00～:南公会堂)
- 8月1日(木) 学習会3年生補充学習(10:00～:郡頭教育集会所)
- 7日(水) 徳島県部落解放学習会中学生集会(10:00～:板野町ふれあいプラザ)
- 9日(金) 2年生登校日
- 12日(月) 1年生登校日
- 16日(金) 第10回青少年健全育成球技大会(板野高校他)
- 17日(土) 学習会3年生補充学習(10:00～:郡頭教育集会所)
- 19日(月) 学習会3年生補充学習(10:00～:南公会堂)
- 20日(火) 3年生登校日
- 21日(水) 全校登校日
- 24日(土)・25日(日) 学習会県外交流一泊研修会(大阪)
- 28日(水)・29日(木) 解放子ども会リーダー研修会(淡路)
- 9月2日(月) 始業式
- 3日(火) 『MY SKY 第15号』発行日



次の記事は、今^き 春^しに朝日新聞に掲載されていたシリーズ3連載^{こんしゅん}の最終回^{けいさい}です。どうぞ
読んでみてください。

「差別」の中で

下

同和問題の今後

は、部落出身じゃないと一度学校へ来ないか」と誘
自分に言い聞かせた。やはり、差別されるのが怖かっ
たせいだという。

同和問題 地対協総括部
会の報告書は、同和問題の
解決を「国や地方公共団体
はもとより、一人一人が解
決に向けて主体的に努力が
なければならぬ。基本的

大学は、教師の道を
た古田さんは、教師の道を
申谷さんから勧められた。

に指定された地域はない。
急激な都市化の中で、部落
の存在に対する意識は薄ら
いでいるように見える。

年院から戻って南葛飾高校
の定時制に入学。部落研
も、この少年と二人で始め
た。東京にも差別が厳然と
あることを知った。「自分
を抑圧してきたものを見つ
めることでしか人は立ち上
がれない」と申谷さんは確
信する。

東京都立南葛飾高校定時
制で三月十五日の夜、部落
問題研究部の例会が開かれ
た。

「田中正造」を伝える授
業の記録ビデオが上映され
た。足尾銅毒事件で、谷中
村の村民のために生涯をか
けて闘った人物だ。十
人余りの生徒やOBはじっ
と見つめている。

ビデオが終わって、顧問
教師の申谷(さるや)雄二
さん(58)は、被差別部落出
身と名乗った教師を描く島
崎藤村の小説『破戒』のモ
デルとなった教師、大江機
吉の話をした。

大江は部落出身を名乗っ
たが、小説のように土下

出身書 懸命に生きる側に身を

十一時を回っても、だれ
も帰ろうとはしない。在学
時代、全校生徒の前で「出
身宣言」をしたOBの古田
伸行さん(30)もいた。

申谷さん(30)もいた。
例会に顔を出すようにな
った。しかし、胸の内では
靴職人の両親のもとに育
った。

めた。どんな所にも人
間には二種類ある。一生懸
命に生きる人間と、そうで
ない人間。懸命に生き
る側に身を置くという覚
悟が芽生えた。

約四十万人の被差別部落
出身者がいるといわれてき
た。東京には、「同和地区」

ことを考え始めたのは、教
師になって二年目の夏、校
門の前でシンナーを吸って
いた部落出身の少年と知り
合ったのがきっかけだっ
た。

このシリーズは貝瀬
秋彦、北野隆一、中沢
一議が担当しました